



初めての体験「麦こき」

■ 4地区で懇談会開催	2
■ 6月定例会議案審議	3
■ 委員会レポート	4
■ 議会広報モニターを委嘱	5
■ 一般質問(10議員が登壇)	6
■ 寄稿 郷土の先人たち	16

開かれた議会を目指して

4地区で 議員と町民の懇談会開催



小規模区にも
手厚い補助金を

大久保区



東山林道の
整備は？

五開区



空き家対策は？

平林区



塩沢川の整備を

小林区

議会改革の一環として、休日議会に続き、懇談会を4地区で開催し、町民の皆さんの生の声をお聞きすることができました。各地区とも問題を抱え、行政への要望が多く出ました。議会として、町民の声を行政へ届けるとともに、行政のチェック機能を果たしながら、町民と協働のまちづくりを推進します。

今回の懇談会の結果を検証し、今後も各地区を回って対話の機会を持つ予定です。

大勢の方の参加をお待ちしています。

町政の主役はあなたです！

小・中学校に 太陽光発電設置へ

補正額 2,012万8千円

総額 71億5,033万2千円

おもな補正予算

景観計画策定業務委託費 (県補助金 200万円)	420万円
災害時用衛星携帯電話購入費	157万5千円
災害時用無線機購入費	247万3千円
災害時用職員作業着購入費 (職員負担金 90万5千円、1人5千円)	280万9千円
小中学校太陽光発電設備設置設計業務委託費	588万円

第2回定例会(6月議会)を、6月10日、16日まで開催しました。補正予算案3件、条例改正案4件、人事案3件、請願・意見書2件、専決処分承認案7件、町道認定

案2件を審議し、すべて原案どおり可決しました。なお、6月12日には休日議会を開催し、10人の議員が一般質問を行いました。

質 疑

〔災害時用作業着について〕
問 職員であると分かるようにするのであれば、ゼッケンなど他の方法もある。
答 かつては職員に作業着を貸与してきたが、経費削減ということで中止していた。作業中の安全確保のため必要である。

〔太陽光発電について〕

問 事業内容および総事業費は？人命にかかわる庁舎・町民会館の耐震化を優先すべきではないか？
答 エアコン設置と平行して導入する。学校施設の構造上導入が可能か、設置方法および発電容量について調査する。費用の総額は調査結果が出ないと分からない。庁舎などの耐震化は更なる合併を公約にしているため、その判断をしてからになる。

〔景観計画策定について〕
問 具体的にどのような生かしていくのか？
なぜ、補正を組んでまで策定する必要があるのでか？

答 町の景観保全のため、条例を制定し規制していきたい。本年度での補助制度は終了となる。資金および人的支援のあるうちに取り組みたい。

条例改正

町営バス設置条例
無料となる利用者および証明方法について定めた。

町税条例

震災被害者に対する税の減免措置を定めた。

職員の勤務・休暇条例

東日本大震災のボランティア休暇を5日から7日とした。

手数料条例

町営バス乗車証明書発行手数料を300円と定めた。

人権擁護委員を再任

深澤 稜子氏(歟沢)

意見書

一、TPP(環太平洋経済連携協定)への交渉参加阻止に関する請願

TPPは、関税撤廃の例外措置を認めない、完全な貿易自由化を目指した交渉です。工業製品の輸出拡大や資源の安定確保を目指して日本は貿易立国として発展してきました。

一方、日本の食料自給率は著しく低下しています。TPPを締結すれば、日本農業は壊滅的な打撃を被り、崩壊の一途をたどりかねないので、認めることはできません。

提出先 内閣総理大臣

二、浜岡原子力発電所の恒久停止を求める請願

東北地方太平洋沖地震は、福島原発を崩壊させ、「原発安全神話」にピリオドを打ちました。東海地震は今後30年以内に87%の確率といわれており、当町は浜岡原発から約100キロ、恒久停止と原子力中心から、持続可能なエネルギーへの転換を求めます。

提出先 内閣総理大臣

経済産業大臣

ピカリコ 1 発電所(第1保育所)



どうなる…国保税？

総務常任委員会

「浜岡原子力発電所の恒久停止を
求める請願」を審査

「請願者」
富士川町地域温暖化対策地域協議会

委員会では、左記の意見が出され、
全会一致で請願は可決されました。

浜岡原発は本町から約100キロ
の位置にあり、事故が起きれば重大
な影響を受ける。福島原発の事故に
より安全神話は崩れた。今後は自然
エネルギーを増やす方向にかじを取
るべきだ。浜岡は地震発生確率が
高く非常に危険な原発である。した
がって、この原発は恒久的に停止す
べきである。

教育厚生常任委員会

国民健康保険税について議論

委員会では年々増加している医療
費に対し、何が原因なのか調査を始めた。
国保を担当している町民生活課を
はじめ、福祉保健課、子育て支援課
など、国保に関係ある各課に資料の
提供を求め、課を越えて調査に乗り
出した。さらに、これまでの負担割
合は「所得割40%」「資産割10%」
均等割35%、「平等割15%」になっ
ているが、この負担割合も含め、調査・
検討を始めている。

また、今年度は幼稚園、保育所、
障がい者施設を訪問し、富士川町の
現状と課題を探る。

富士川町第1号 ヘリポート完成

現地 視察



小室ヘリポート

産業建設常任委員会

J Aふじかわより出された

TPPへの交渉参加阻止に関する請願を審査

「審議結果」

「大震災の中で、農業・漁業が甚大な被害を受けている。このような中、今はTPPに参加する時期ではない」などの理由から、本請願を採択し、本委員会から意見書を提出することに決定した。

病院問題

鯉沢病院は
当面存続されるが…

まだまだ先行き不透明



経営統括プランの説明会

国会では議員立法が可決され、鯉沢病院についても存続の可能性が見えてきました。しかし、医師の確保や経営再建など、中身に関しては全く具体的な方針が示されておらず、不安材料は山積しています。

富士川町議会「地域医療を守る特別委員会」では、この間、医療に関わるさまざまな分野から講師を招き、勉強会を行ってきました。また、峡南地域の病院受療動向などの調査・研究を行い議会独自の活動をしてきました。今後は、峡南地域の充実した医療を確保するため、国の動向をみながら慎重に議論を重ね、議会としての結論を出していきたいと考えています。

議会だよりに皆様の声を！

— 議会広報モニター8人を委嘱 —



志村 正和さん
(増穂小PTA)



赤池 静江さん
(富士川町老人クラブ)



青柳 友隆さん
(富士川町体育協会)



今村みゆきさん
(富士川町文化協会)



加賀美美香さん
(商工会青年部)



田中 修さん
(富士川町消防団)



中込麻衣子さん
(保育所保護者会)



雨宮 郁子さん
(鯉沢中PTA)

議会広報常任委員会は6月30日、議会広報モニター1人の委嘱式を行いました。
委嘱期間は議会だより第8号(平成24年3月定例会)までとなります。今後、8人のモニターには議会だよりにご意見をいただき、読みやすく、分かりやすい紙面になるよう、ご協力をいただくこととなります。

町政を問う 一般質問

深澤勝雄 議員



問 地区公民館の建て替えは

答 地区から要望が上がった時点で予算計上

問 町内には老朽化している公民館も多くある。災害時には避難場所ともなっている。建て替えに際し、どのような働きかけをするのか。
生涯学習課長 平成22年に公民館補助金交付要綱をまとめ、旧建物の解体、建築工事を補助対象とし、居住

人口に1万円を乗じた金額を補助している。
 新築については多額の費用を要するので、準備が整つ



新しくなった小林公民館

た地区から要望が上がった時点で、補助金の予算計上をしていく。

公共施設の防災対策は

問 町民会館の耐震化工事の現状は。
町長 耐震補強工事は行っていない。

問 長期展望の中で、町民会館の建築についての考えは。
町長 鯉沢町との合併は成立したが、更なる合併も視野に入れている。

現町民の利用する規模の役場や、町民会館を建設するか否かの判断は、まだする時期ではないと思っている。今回の防災計画の見直しに併せ、避難場所から削除する。

役場本庁舎に自家発電装置設置は

問 災害時、町民の生命財産を守るため、負託に応えるためにも発電装置の設置を提案するが、役場機能維持のため、電源確保につい

てどのように考えているのか。
町長 計画停電時には発電機を利用して、電話などの使用電源は確保できた。

戸籍業務等々のコンピュータは使用できなかった。今後、非常時における電源確保のために、自家発電装置を設置する。

町道八丁山線の道路修復と観光対策は

問 上七尾橋から平林に通ずる道路が乗用車でも通行困難だ。修復の予定は。
建設課長 年2回ほど重機を入れ、路面整正と維持管理を行っている。

今後も非常時の迂回路として通行に支障がないよう努めていく。

問 戸川沿いの観光振興について、将来に向けての構想は。

商工観光課長 平林の周遊ルートをつくるよう努力している。このルートの中の一つとして利用できるか、検討していきたいと考えている。

問

庁舎・公共施設の節電はどのように対応するか

答

20%抑制を目標に徹底して取り組む

芦澤 益彦 議員



問 今夏の電力不足は緊急事態である、庁舎や公共施設の節電はどのように対応するのか。
町長 クールビズやノー残業デーの実施、庁舎・公共施設・街路灯の照明の間引き、照明使用時間の短縮、節電のためのシステムも導入しながら、徹底した節電対策に役場全体で取り組み、20%以上の抑制に努めていく。
問 一般家庭への節電の必要性や啓蒙は、どう対応するのか。
町民生活課長 家庭に対しては、電気器具のコンセントを抜く、照明をこまめに

切る、ツル性植物を育て、緑のカーテンを作るなどを実践していただくよう、広報紙・暮らしのカレンダー・ホームページなどで呼びかけていく。
問 小中学校の児童生徒に対する節電の取り組みは。
教育総務課長 増穂中学校では、生徒会を中心に昨年からの節電活動を実施して、国際認定も受けている。他の小中学校でもこの取り組み



節電対策！緑のカーテン！！

みを参考として、本年から節電の意識の向上を図っている。
問 クリーンエネルギー（太陽光発電など）導入家庭は今後増加すると思うが、町の受け入れは。
町長 太陽光発電の建設費の補助金については、年々件数が増えている。希望者には補正予算を計上して対応し、要望が満たされるように努力する。

富士川町を縦断する

リニア中央新幹線の対応は

問 JRはリニア中央新幹線の駅と路線の大まかな位置を発表した。本町を縦断する路線になっているが、町の対応は。
町長 峡南6町が一丸となり、建設促進と駅誘致を目指して取り組んできたが、駅は地理的・技術的な面から、盆地南部地域が妥当という計画のようである。

路線は富士川町を縦断する形になるので、今後資料収集に努力する。
問 リニアを町の活性化に結び付けていくのか。
町長 幅3kmの大まかな路線なので、富士川町のどこを通過するのかが分からないが、沿線地域の経済効果、交流人口の増加、観光の促進につながる。

基本理念である「人、もの集う、ときめきの郷」を掲げる本町の活性化に結び付けたい。

問 教育振興計画に 多くの町民の声を

答 子育て世代に策定委員を要請 HPから意見を取り入れる

長沢けん 議員



問 町の教育振興計画に多くの町民の声を反映してほしい。
教育長 町民の意見交換会を2回開催する予定。パブリックコメントを実施し、多くの町民の意見を反映する。
問 仕事や子育てで来られない方の声を反映できるか。
教育長 子育てに携わっている方を策定委員会のメンバーにしたい。ホームページで意見を取り入れる。
問 基本計画は各戸に配られるのか。
教育長 ホームページでも公開するが、ダイジェスト版も各戸に配りたい。

問 町内の小中学校は、必ず建て替えの時が来る。財源の確保は。
町長 建て替え時に使える財政調整基金、公共施設整備基金などがある。
問 国庫補助金の確保、有利な起債も確保しながら事業を進め、これらを総合計画で検討していく。
問 学校建設財源確保の根拠、既存校舎の改修計画を、教育振興計画に載せてもらえるか。
教育長 教育振興計画はあくまでも基本計画なので、掲載は考えていない。

安全な通学路の確保は

問 町道最勝寺小林2号線は、通学路として利用しているが歩道がなく危険。
建設課長 当該路線沿いは家並みが続いており、歩道設置は現状では困難。
問 歩道線を広げ、側溝に蓋をかけ、緑色に塗るなどの安全対策ができないか。
建設課長 車道を狭くしてカラー舗装を行うには、地元地域の合意が必要。学校や地区で話し合いを重ね、町に要望してほしい。
問 他にも通学路に歩道がない道路が多々ある。調査・検討し歩道設置ができるか。
総務課長 通学路の危険個所について調査を続ける。危険個所は、関係団体と相談し対応する。



安全な通学路の確保を

スポーツ振興は

問 富士橋上流右岸の河川敷の多目的グラウンドの建設はどうなっているか。
町長 富士川水辺空間活用構想の検討を始めた。ふれあいスポーツ広場を拡張してサッカー場を含めた400メートルトラック、また、ソフトボール場や憩いの広場、駐車場なども取り入れたい。
問 殿原スポーツ公園のテニスコートを、フットサル場にできないか。
生涯学習課長 冬季は凍結で使用が不可能。屋根付きのグラウンドにすると面積の確保が困難。ソフトボール場の利用者のウォームアップの場として活用していきたい。
問 別の場所にフットサルのグラウンドを造る考えがあるか。
生涯学習課長 要望が多いようなら、富士川水辺空間活用計画に併せて検討する。
問 大法師公園と殿原スポーツ公園で、つながる公園ができないか。
町長 両方とも桜が主体の公園。殿原の桜と大法師の桜を結ぶ桜街道をつくりたい。

有害鳥獣から 地域農業を守る方策は

地区にあった整備を 順次進めていく

齊藤 正行 議員



問 地域の人たちが、せっかく作った農作物が収穫間際になって被害を受け、悔



土録の電気柵

しい思いをしている。侵入防護柵の設置が有効だが、設置ができるのか。

農林振興課長 近年、鳥獣による農作物の被害が急激に拡大し、山間地を中心に全域で被害を受けている。

防護柵は平成18年から春米最勝寺間が完成し、穂積地区は昨年度から着工、鹿島・箱原・柳川・鳥屋地区は今年度検討していただいている。その他、未整備の地区には地区の事情に応じた補助事業を検討し、順次整備をしていく。

町の本庁舎、分庁舎 の建て替えは

問 東海地震の指定地域に入っており、いつ起きてもおかしくない状態だが、町の心臓部である庁舎が崩壊すれば、大変な被害を受けることになる。建て替えの考えはあるか。

町長 子どもたちの安全確保を優先してきた。町の公共施設は住民の皆さんを迎え入れる施設のため、安全に訪れていただけるように思っている。

消防団員の確保は

問 団員の確保は厳しい状況にあるが、機能別分団や婦人分団などの機構改革で、定数の見直しを考えては。

さらなる合併を住民の皆さまと約束しているため、本庁舎などの改築については見送ってきたが、合併の気運も変わっている。そろそろ町民会館も含め、検討していかなければならない。

総務課長 現在定員数280人、実団員数は257人、団員の確保や分団の運営は厳しい状況にある。

今後、消防団OBや地域住民の協力を得て、機能別団員や女性消防団について、県内の活動状況を調査し、消防団とも協議・検討していきたい。

消火栓で 放水訓練は

問 長い間消火栓を使用した訓練が行われていない。ホースの折れ切れが心配だが、地域を分けての消火栓の使用ができないか。

上下水道課長 水道水は瞬時に大量の水を使用すると、水道管内壁に付着している酸化物が流出し、濁りの原因になることから、消火栓の使用を禁止している。地区を区切っても使用を許可することは考えていない。

問 消防団にお願いしてホースの点検を行う考えは。

総務課長 消防団と相談していきたい。

問 要援護者・高齢者に 救急医療情報キットの配布を

答 配布に向けて 対象範囲などを検討する



課題が残る難聴地域



堀之内美彦 議員

問 要援護者・一人暮らしの高齢者に、救急医療情報キットを配布し、安全・安心確保が大事と思うが見解を問う。

町長 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯・要援護者世帯も増加している。日常生活の中で、緊急時の対応に不安を抱えている災害弱者の皆さんが、救急医療情報キットを備えるこ

とで、急病や災害時の安全・安心が期待される。配布に向け対象範囲等を検討していく。

防災無線の難聴地域 解消の取り組みは

問 防災無線の音が聞き取りにくいとの声がある。町からの連絡内容が把握できないと不安になる。

難聴地域を解消するための今後の取り組みについて問う。

総務課長 難聴地域の現地調査を行い、拡声器の取り付け位置や方向の調整などを実施している。これらの対応でも改善できない場合は、子局の移設・増設も検討し改善を図っていきたい。

問 防災無線放送を、フリーダイヤルで聞くことができるサービスを行っている自治体もあるが、本町も導入の考えがあるか。

町長 避難命令・避難指示を出す豪雨の時は、野外放送では聞き取りにくい。

全家庭には一気には無理

だが、ハザードマップで危険な場所にお住まいの方など順次、家の中で聞こえる装置を設置するよう、検討に入ったところだ。

特に災害に関する情報だけになると思うが、各家庭に届けられるよう、今後、検討を進めていきたい。

町民・町職員の防災士 育成は考えているか

問 災害時には、自助・共助が必要である、今後多くの防災士資格取得者が必要と考える。

役場職員・区役員・町民の中より希望者を募り、育成することが大事と考えるかどうか。

総務課長 地域の防災力向上を図る上で、防災士・地域防災リーダーの存在は重要である。

防災士の制度について、町民の方に広報などを通じて周知を図っていく。

問 町の農業振興をどう考えるか

答 農業再生と振興に努力する

保坂 實議員



問 国は食料・農業・農村基本計画を、県はやまなし農業ルネサンス大綱を策定し、未来につなぐ農業の再生と振興を進めている。

町内農業は、高齢化や担い手問題などで営農環境は厳しさを増し、耕作放棄地は増え、脱農業の兆しさえみえる。当町農業の再生と振興への考え方を問う。

農林振興課長 国や県の方策に沿った、中山間地域の直接支払いや農地・水環境保全事業などで、地域農業の活性化を図っている。

22年度データによる当町

の耕作面積は258ヘクタール、耕作放棄地は52ヘクタール、農業担い手や耕作放棄地対策として町が借り上げ、新規農業従事者に貸し付けている。

農業委員会やJAなどの団体と連携し、援農支援を続けたいと考えている。

問 「週末は富士川町にいきます」都会で働き、田舎暮らしの2地域居住で文化交流をする都市住民との交流で、農業を振興する考えは。

農林振興課長 観光と連携



農業の再生と振興は

した、ふれあいの郷づくりについて、農村資源を生かした交流体験施設整備や、農村情報の発信を進める。

問 地元の県立高校（生徒会）

では、地産のゆず加工やラフランスを使ってパイを商品開発し、多忙な収穫時には援農活動に汗を流している。

当町内には、県内一のアグリ企業や、峡南地域1万農家出資の農業団体と、農村女性グループも活動しており、今後とも連携を深め

当町農業の振興と持続した地域おこし活性化を推進する考えはあるか。

農林振興課長 穂積地区・

ゆずの里では、県の事業を取り入れ、農村女性の新商品開発支援事業で、商品開発を活発にしている。さらに支援の強化を図っていき

メッセージエリア 拡大への考えは

問 当町メッセージエリア0556は、早川町と旧六郷町、旧中富町、旧下部町の全域だが、情報が空をとんでくる情報ハイウェイの時代、生活圈、経済圏が同じ055の甲府メッセージエリアに広域拡大して相互便益できるよう、総務省や通信事業者へ働きかける考えがあるか。

企画課長 当町のメッセージエリアは旧2町合併前と同じエリアで、今のところ不便を感じていない。

加入者である多くの町民が望まれる時点で検討する。

山王土地区画整理 なぜ進めるのか

黒沢バイパスと民地の段差をなくし 有効活用を図るため

秋山 貢 議員



問 県から黒沢バイパス建設にともない、土地区画整理事業を持ちかけられたというが、町として実施しようとする理由は。

町長 県道の黒沢バイパスの路線が決まった。現状の地形では、バイパスと民地の間に段差が出てしまう。せっかく道路が整備されても、あとの土地利用がうまくいかないということから、県道整備と一緒に区画整理をやっているという話になった。市川三郷町の土地もあるが、地権者もまとまり、土地区画整理組合の設立準備委員会もできた。このたび、両

町にも協力要請があったので進めることとした。

問 事業が完了する平成24年度から27年度の4年間、建設課の職員1人を区画整理組合の事務所へ派遣するというが、その給料はいくらかかるのか。

町長 富士川町では詳細は決まっていないが、仮に1人出して、年間500万円の給料だとすると、2千万円かかる。



山王土地区画整理予定地（駅前通り2丁目）

問 総事業費に対する、町の負担はいくらになるのか。

建設課長 準備委員会の現段階の原案では、総事業費5億円と見込んでいる。

そのうち区画内道路に係わる築造費や用地費1億2千万円が、富士川町の負担になる。それに、上下水道の敷設費用7千5百万円ほどを考えている。

費用については、認可申請までに、県と市川三郷町

とともに圧縮できるところは圧縮する。本町の負担分は、社会資本整備交付金や過疎債の活用など、一般財源の軽減を考えている。

問 神奈川県横須賀市は、活断層の上への建物の建築制限を開発事業の中でやっている。町でも活断層の調査をして、安全なら安全と、危険ならそれなりの対応をすべきと考えるが。

建設課長 山梨県や市川三郷町、準備委員会とも相談する中で対応を検討していく。

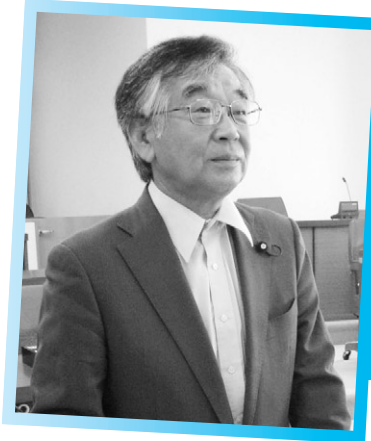
河岸跡朝市の 進み具合は

問 7月開催予定と聞いているが、進み具合は。

商工観光課長 総事業費835万円で、平成23年度当初予算に計上した。協力いただく各種団体からなる実施組織を立ち上げるため、現在、関係団体と話し合いを進めている。早期に開催できるよう努力していきたい。

問 病院の統合運営 現在の考えは

答 夢のような法案が成立する 内容を確認し対応する



斉藤 欽也 議員

問 今国会で病院の存続を前提とした法案が議員立法で出される。

これまで、RFOによる鯉沢病院の売却・廃止の方針を前提とした、病院の統合再編を議論してきた。議論内容も病院の存続から機能の充実へと変わってきたと感じている。

病院経営は財政的負担が極めて大きい、対策を練り直すべきではないか。

町長 鯉沢病院が、売却を進めるための整理機構（RFO）に移管されて以降、病院存続と医師確保・地域

医療充実のための活動が行われてきた。

一昨年売却から存続へと方針転換した法案が提案されたが、首相の辞任で廃案となった。こうした中、峡南北部地域の医療のあり方を調査検討をしてきた。先ごろ、調査検討委員会が検討結果案をまとめたが、その一方でRFOを施設などの整理統合を目的とした組



医療は国の責任で

織から、病院の運営を目的とした組織に改組する法案が、6月10日に衆院本会議で可決した。今国会で成立するものと考えている。

同法案は社会保険病院を抱える市町村にとっては夢のような法案である。しかし、付帯決議なども付いており問題もあると思う。鯉沢病院がどうなるのか確認したい。

町長 法案が通った後、関係機関に行つて話を聞く。

避難場所・誘導の見直しは

問 複合大規模災害に対応した、避難場所・避難誘導の見直し作業は。

総務課長 地震、火災、土砂崩落、土石流など複合型災害も想定した避難路の設定や、避難所の安全対策も必要である。区の実情に見合った行動ができるよう、区ごとの災害マニュアルを策定する。

問 耐震性の点から、町民会館を避難所から削除することのだが、大ホール部分の使用制限も考えるべきではないか。

町長 地域防災計画は東日本大震災以前に作られたものであり、耐震化されていない体育館・役場・町民会館が避難所になっていた。より現実的な防災計画、対応マニュアルを作る。

問 防災計画の大幅な見直しが求められているが

答 地区ごとに災害対応マニュアルを作成する

永井寛子 議員



問 本町では、東日本大震災の被災地に職員をどのくらい派遣しているか。またそこで何を学び、今後にどう生かしていくつもりか。

総務課長 43人の職員が希望を出してきたが、実際には現地の都合もあり、保健師1人、救援物資を輸送するための職員5人を派遣した。人的支援体制の整備や、町民自らが地域を守るという防災理念を持つことの重要性を教訓として得た。

問 今回、共助の重要性が認識されてきた。本町でも地区によってはすでに、食料、生活用品を自分たちで準備

しているところもあるが、自主防災組織などへのサポートを行う用意はあるか。

町長 大きな災害の場合には、災害対策本部が機能するまでは、地域住民による初動活動が柱となる。

その中心となる自主防災組織の主体的活動については、早急に取り組む。

地区ごとに災害の状態が違うので、その地域に合った災害対応マニュアルを作成する。

問 災害時の要援護者の支援体制はできているか。

福祉保健課長 180人が登録している。災害発生時には、町と民生委員、自治会組織などで、迅速な支援救護活動ができるよう情報の共有化を図っている。

また、災害により避難所対応が必要となる要援護者は、町内の社会福祉施設などに要援護者用避難所を開設する。

問 人工呼吸器などの使用者にとつて、電気が止まれば命にかかわるようなことになるが、対応は考えているか。

るか。

福祉保健課長 在宅での医療機器使用者については、先の計画停電時、発電機を必要とする方への貸出しを行った。高齢者や障がい者が災害弱者とならず、安心して暮らせるよう、支援対策を講じていく。

問 独自に食料の備蓄をしている学校もあるが、一歩進んだ取り組みである。保育所、小中学校の避難対策を問う。

教育総務課長 震度5以上



備蓄品を整備する自主防災活動

の地震が発生した場合は、保護者の迎えによる帰宅となる。保護者が迎えに來れない場合には、生徒は学校で待機するため、非常用の食料を備蓄している。

問 中山間地区の学校では、孤立する恐れがあるので、子どもの数だけ寝袋がほしいという要望があったが。

町長 何年かかるかもしれないが町で責任を持って行う。

問 県道高下鯉沢線の入口部分の拡幅は

答 旧町時代から両町で要望
今後も解決に向けて取り組む



拡張が難しい県道



井上光三 議員

問 県道高下鯉沢線の鯉沢地区内の拡幅は、地域住民の長年の念願である。合併して町がひとつになったことにより、拡幅問題は進展するのか。

町長 重要な路線であり、旧町時代も合併後も県に要望を行っている。道路の底地処理に課題があると聞いているが、今後はこの課題の解決に向け、県と連携し

て整備手法を検討していく。**問** 拡幅の早期実現が可能な場合、鯉沢警察署の前から、峡南自動車教習所の前を通るルートを主要道路とし、県道に変更できないかという意見がある。町長の考えは。

町長 旧増穂町時代にこのルートを検討した経緯があるが、県道に変更することは難しい。町では、現在の路線拡幅のほうの実現性が高いと思っている。

森林保全は

問 森林の荒廃が公益的機能を低下させ、野生動物の被害をもたらすなど深刻な問題となっている。

特に民有林は個人では対応できない状況となっており、行政として森林保全に取り組んでいく考えがあるか。

農林振興課長 民有林は、国および県の森林整備交付金などの活用を進めている。町でも一部を助成しているが、今後は新たに導入される森

林環境税の用途を注視していきたい。

問 林道の整備が不十分であるが、整備方法の見直しを考えているか。

農林振興課長 林道は草刈りや路面整備などの維持管理を行っており、土砂崩落などがあれば早急に対処している。今後も通行に支障がないよう適正な管理に努めていく。

少子化対策は

問 少子化対策として、町独自の結婚支援活動を導入していく考えがあるか。

町民生活課長 町では、結婚相談員を委嘱し、結婚相談所を開設している。これまで結婚に結びつくケースがなかったため、結婚相談員の廃止も検討されたが、町が取り組んでいくことが大切として、結婚相談員事業は継続されることとなった。

郷土の先人たち

社会運動家 望月百合子

富士川町百合子会会長
望月 光治
(十谷在住)

作家・評論家・翻訳家・アナキスト・仏文学者、さまざまな肩書きを持つ社会運動家の望月百合子（本名百合、後に結婚して古川百合となるが、対外的には生涯望月百合子で通す）は、明治33年、東京で社会運動家・石川三四郎の子に生まれる。石川の友人で旧五開村長知沢の望月好太郎が、生まれたばかりの娘を亡くしたため、生後間もなく望月家の養女としてもらわれ、幼年期を長知沢にて過ごす。明治40年、6歳になり山梨師範附属小学校に入学、大正3年13歳で、東京の私立成女高等女学校に入学する。4、5歳ごろ、近所のがき大将に連れられ、小柳川を挟み、旧穂積村仙洞田の子どもたちと石投げ合戦をしたこと、5歳のとき、長知沢から十谷に嫁ぐ花嫁さんの添嫁として十谷に行き、庭先に道祖神の祀られている家で遊んだこと、甲府のお城で危ない遊びをしてしかられたことなど、鮮明に記憶していて懐かしそうに

回想していた。20世紀を生き抜いた百合子にとつて、山梨で過ごした13年間は、80年以上暮らした東京や満州・フランスより、はるかにかけがえのない故郷であり、激動の世紀を生きる礎となった。百合子は「限らない自由を生きて」ほか数多くの著書を残している。なお、女性雑誌「女人芸術」創刊に参加して、フランス文学の翻訳を連載するなど多数の投稿をしている。一方、新聞記者時代から多くの文学者や画家と交流があった。特に画家・竹久夢二とは実父石川三四郎と共に親交が厚く、百合子をモデルにした画もあった。平成6年、身延町西島出身の笠井彦乃と、大正口マシを代表する画家・夢二との愛の舞台となった富士川河岸に、夢二の思いを残す歌碑を建立する話が持ち上がった。時を同じくして百合子を慕う多くの人々の願いから、激動の人生を詠んだ歌碑を、富士川と甲府盆地を望む大

法師公園の一面に建てることとなった。この夢二の碑には、山国は はや秋風の立ちそめぬ 吾がおもつ子に さやりあらずな 百合子の碑には人生の礎となった故郷への思いを 限りなき 空の蒼あり 富士川の 激湍ありて 今のわれあり と記されている。百合子は自分の骨は山梨に埋めると決めていて、生前甲府の妙遠寺に古川家の墓を建てた。今そこに眠っている。平成11年、長知沢に幼年時代の思い出をつづる記念柱を建てる。百合子は、かけがえのない郷里・鵜沢町に多額の資金を寄贈し、文化施設の充実に大きな貢献をした。平成8年、町から名誉市民の称号を受ける。

(敬称略)

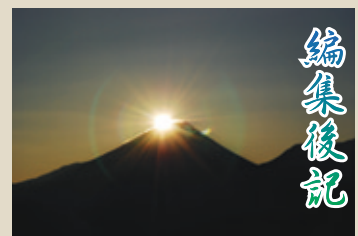
議会クイズ

- 問題1. 富士川町第1号ヘリポートは、どこの地区にあるか。
- 問題2. 今回議員懇談会で回った地区は何力所か。
- 問題3. 小中学校の太陽光発電設計費はいくらか。

《景品》抽選で3名の方に図書券千円分を差し上げます。
《応募要領》必要事項を記入の上、ハガキにて応募ください。
・答え ・郵便番号 ・住所 ・氏名
・年齢 ・電話番号 ・議会広報の感想
《宛て先》〒400-0592 富士川町天神中条1134
富士川町議会事務局 行
《締め切り》平成23年7月末日(当日消印有効)
《当選者の発表》商品の発送をもって当選と代えさせていただきます。

前回の答え(1)71億 (2)6円 (3)6月1日
厳正なる抽選の結果、3名の方に賞品を発送しました。

編集後記



3月11日の大震災を機に、国を挙げてライフスタイルの見直しをしようという動きが広がっています。節電のため照明を落としているスーパーなども、当初は薄暗く感じたのに、慣れてくるとこれが当たり前のようになってくるのが不思議です。私たちはこれまで、いかに過度の快適さを求めてきたか、改めて教えられた思いがします。とはいえ、夏真っ盛り。やっぱり暑いですね。熱中症にはくれぐれも気をつけて、この夏を乗り切りましょう。(永井寛子)

発行/山梨県富士川町議会
編集/議会広報担任委員会

〒400-0592 山梨県南巨摩郡富士川町天神中条1134
TEL/0556-22-1111 FAX/0556-22-3177